様式７号　　農地活用提案概要書

事業者名	高槻電器工業株式会社
提案タイトル	茶産地の継承と高付加価値化　―緑茶栽培の継続と６次産業化の推進―
経営基盤	昭和 32 年(1957 年)設立／資本金 9,800 万円／従業員 321 名／全国 9 拠点(製造 6 拠点＋アグリ・飲食事業)
希望区画	第１希望：区画１（第２希望：区画２／第３希望：区画３）。全区画（区画１～３）を希望します。
主な作付	緑茶（新植・改植）、モリンガ（既存農地・拠点で継続）
活用方針の概要	既存の茶園設備（防霜ファン等）を活かして緑茶栽培を継続し、地域の茶産地としての価値と景観を守ります。モリンガの栽培・加工・販売で培った知見を緑茶と組み合わせた新商品開発に活かし、知覧町の飲食店「旬蒸 terrace」を新たな提供・販売の場として活用します。若手農業者の雇用・育成、環境美化、丁寧な苦情対応を通じて、地域住民が安心できる持続的な農業経営を実現します。
取引実績	取引先 42 社（九州内 33%／九州外 67%）。モリンガ出荷量は昨年実績 6t（うち九州内 50%／九州外 50%）。
雇用・地域貢献	農業部門の増員により常時・季節雇用を創出。地域の契約農家 24 名と連携し乾燥品を生産する体制を構築。資材調達・設備補修・加工委託を可能な範囲で地元事業者へ発注し、地域経済に還流させます。
特徴・ＰＲ	製造業（ISO9001・ISO14001 認証）として培った工程・品質・原価管理の手法を農業経営に応用。モリンガの栽培・加工・販売による６次産業化の実績とノウハウを本事業に転用し、緑茶とモリンガを組み合わせた高付加価値な新商品開発を推進します。
取得後の投資計画	１年目：防霜ファン（敷地内計 64 台）の点検及び現状確認を行います。２年目：パウダー工場を建設し、自社でのパウダー加工を開始。３年目以降：パウダー製品による６次産業化商品の展開・販路開拓に取り組みます。
環境美化・苦情対応体制	ほ場外周の植栽・除草を定期的に実施し、農薬飛散防止・排水管理等により周辺への影響を防ぎます。苦情窓口は工場稼働時 24 時間対応とし、受付から是正・報告まで原則当日中に初期対応を行います。